



園で流行しやすい病気と、登園の目安

意見書（医師用）が必要な感染症

感染症名	感染しやすい期間	登園時期の目安
麻疹（はしか）	発症1日前から発しん出現後の4日後まで	解熱後3日を経過してから
インフルエンザ	症状がある期間（発症前24時間から発症後3日程度までが最も感染力が強い）	発症した翌日から5日間かつ解熱した翌日から3日間は、登園停止となる。
風しん	発しん出現の前7日から、後7日間	嘔吐、下痢の症状が治まり、普段の食事がとれること
水痘（水ぼうそう）	発しん出現1日～2日前から、痂皮形成まで	全ての発しんが痂皮化してから
流行性耳下腺（おたふくかぜ）	発症3日前から耳下腺腫脹後4日	腫脹が発現した後5日を経過し、かつ全身状態が良好になるまで
結核	くしゃみや咳が続けて出ている間や発熱がある間、治癒するまで感染のおそれがある	感染のおそれがなくなってから
咽頭結膜熱（プール熱）	発熱、充血等症状が出現した数日間	主な症状が消え2日経過してから
流行性角結膜炎	充血、目やになど症状が出現した数日間	感染力が非常に強いので、結膜炎の症状が消失してから
百日咳	抗菌薬を服用しない場合、咳出現後3週間を経過するまで	特有の咳が消失し、全身状態が良好であること（抗菌薬を決められた期間服用する。7日間服用後は医師の指示に従う）
腸管出血性大腸菌感染症（o157・o26・o111等）	菌に汚染された飲食物を摂取したり、菌に汚染された排泄物を処理したりした後4日～8日	症状が治まり、かつ、抗菌薬による治療が終了し、48時間をあけて連続2回の検便によって、いずれも菌陰性が確認されたもの

登園届（保護者記入）が必要な感染症

感染症名	感染しやすい期間	登園時期の目安
溶連菌感染症	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後1日間	抗菌薬内服後24～48時間経過していること
マイコプラズマ肺炎	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後、数日間	発熱や激しい咳が治まっていること
手足口病	手足や口腔内に水疱・潰瘍が発生した数日間	発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること
伝染性紅斑（リンゴ病）	発しん出現前の1週間	全身状態が良いこと
ウイルス性胃腸炎（ノロ、ロタ、アデノウイルス等） ※通常の嘔吐・下痢含む	症状のある間と、症状消失後1週間（量は減少していくが、数週間ウイルスを排泄しているの で注意が必要）	嘔吐、下痢の症状が治まり、普段の食事がとれること
ヘルパンギーナ	急性期の数日間（便の中に1か月程度ウイルスを排泄している ので注意が必要）	発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること
RSウイルス感染症	呼吸器症状のある間	呼吸器症状が消失し、全身状態が良いこと
帯状疱疹	水疱を形成している間	全ての発疹が痂皮化してから
突発性発しん		解熱し、機嫌が良く全身状態が良いこと

発熱、咳、下痢などの症状は病気を治すうえで必要な身体の反応です。その場合、ご家庭での安静が必要です。まだ病気が回復していない状態で登園すると、まわりに感染を広げてしまうこともあります。主治医より『登園可能』との診断を受けてから、登園するようお願いいたします。

意見書は、医療機関で診察を受け、医師に作成してもらう必要があります。登園届は、保護者が内容を記入してください。意見書、登園届とも、2階玄関靴箱上のボックス、またはホームページからもダウンロードできますので、登園時に提出してください。